

小児科

<指導医> 勝盛 宏、鹿島 京子、藤原 摩耶、小澤 亮、福田 清香、篠永 正昭、
戸張 公貴(指導責任者)、中空 真二郎、山根 慎治

<期間> 必須 2 ヶ月

<指導体制> 診療責任者のもと、上級医師、上級研修医師とチームを組んで診療にあたる

<一般目標> 1)子どもの特性、2)小児診療の特性、3)小児疾患の特性を学び、診療に必要な基礎知識・技能・態度を習得する。

<行動目標>

- ① 子どもや家族と良好な人間関係を築いた上で、必要な病歴聴取・情報収集ができる
- ② 年齢に応じた系統的身体診察ができ、各所見を評価できる
- ③ 子どもの問題を病態・発育発達・心理社会的な側面から正しく把握できる
- ④ 救命処置(BLS)、脱水症・気管支喘息の重症度と応急処置、けいれんの応急処置ができる
- ⑤ Common Disease(特に感染症、発疹性疾患)を鑑別し、適切な対処ができる
- ⑥ 小児薬用量を理解し、適切な薬剤の投与量と投与方法を決定できる
- ⑦ 母子健康手帳から小児の発育、発達、予防接種の種類およびスケジュールを理解し活用できる
- ⑧ 院内感染対策を理解し、感染予防策を実施できる
- ⑨ 指導医、他分野専門医に適切なコンサルテーションができる
- ⑩ 患者・家族が納得できる医療を行うために、適切に説明・指導ができる
- ⑪ 問題解決志向型の診療録記載と退院要約を適切に作成できる
- ⑫ 週 1 回、小児初期一般外来診療を指導医、指導の元に行う

<研修内容>

① 以下の疾患患者を受け持つ

熱性けいれん	気管支喘息	(細)気管支炎・肺炎	鼻咽頭炎・扁桃炎	クループ症候群
胃腸炎	川崎病	尿路感染症	髄膜炎	低身長
腸重積症	低出生体重児	新生児黄疸	新生児一過性多呼吸	

② 以下の疾患を経験する

水痘	流行性耳下腺炎	突発性発疹	溶連菌感染症	インフルエンザ
アトピー性皮膚炎	食物アレルギー	腸重積症	急性虫垂炎	貧血

<週間スケジュール>

日中は主に病棟にて診療にあたり、定期的にかンファレンス、勉強会に参加する。週 1 回の夜間当直、月 1 回の休日日直を行い、上級医とともに小児の救急患者を診療する。

<評価>

- ① 各科研修終了時に指導医がオンライン卒後臨床研修評価システム (EPOC) に入力する。
- ② 各科研修終了時に看護部が「看護部評価表」に記載する。

※以下に小児科の紹介を挙げますが、研修医 2 年生の実際の言葉で紹介させていただきます。

小児科

小児科研修では気管支喘息やウイルス性胃腸炎などの感染症、熱性けいれんや川崎病といった比較的遭遇することの多い Common Disease を中心に入院患者をチームで診療しております。指導医や上級医と一緒に治療方針についてカンファレンスを行い、小児医療の基礎を学んでいきます。コメディカルとの関係も良好で、病棟は明るい雰囲気、子供の笑い声と泣き声が飛び交っています。各領域の上級医数も多く、日常の疑問点など気軽にコンサルトできるのも魅力の 1 つです。

採血・ルート、腰椎穿刺、腸重積症の整復などたくさんの手技も経験することができます。

週に 1 度、小児一般外来を上級医指導の元、担当します。多くの初期診療患者を診る中で、入院が必要な患者を見抜く力を養っていきます。

当直は指導医との 2 人態勢で行います。診療は研修医主体で行い、指導医バックアップのもとで取り組んでいきます。時には両親への病状説明や検査・処方の必要性についての説明と同意については、一筋縄でいかないこともあります。自然と不安をとり、納得と信頼が得られるよう鍛えられていきます。

2 ヶ月間と短い期間ですが、小児科診療の基礎を十分学ぶことができると同時に、将来自分の子供が病気になっても慌てず対応できる力を身につけることができると思います。元気になっていく子供たちの笑顔に癒やしてもらい、日々楽しく働けること間違いなしの研修です。

